

としょかんだより第80号



ご卒業おめでとうございます
ございます



2014年 3月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2014年 4月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			
	9:00-21:30				13:00-21:30	
	9:00-17:00				休館日	

卒業後も図書館をご利用いただけます

図書館は一般開放しているので、同窓生や学外の方々に利用可能です。ただし、利用するには「高野山大学図書館利用願」に必要事項を書いていただく必要があります。その際、免許証等の身分証明書の提示をお願いしています。

「利用願」を記入する際、年間登録を「希望する」・「希望しない」どちらかの項目に○をしてください。「希望しない」に○をした場合、「学外者用図書館利用証」を、「希望する」に○した場合、「図書閲覧表」を作成いたします。違いは以下の通りです。用途に合わせてぜひご利用ください

学外者用図書館利用証

- 利用期間は当日限り
- 閲覧のみ・貸出不可

図書閲覧表

- 利用期間は年度末の3月31日まで
- 閲覧・貸出可
- 貸出冊数…5冊
- 貸出期間
同窓生…3週間
学外者…1週間

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡

高野町高野山 385

高野山大学図書館

閲覧室

TEL:0736-56-3835

FAX:0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

図書の本の返却はすんでいますか？

まだの方は、返却をお願いします。返却は、宅配や郵送でも受付しています。必ず、貸出資料は傷まないように梱包し発行所に記載してある住所までお送り下さい。宛名は「高野山大学図書館」で、品物の欄に「返却図書」とご記入下さい。

美福門院の納骨(2)

高野山大学教授 図書館長 下西 忠

前回は美福門院の納骨に加わったのは、藤原時道・藤原成通・藤原隆信の三人、そして高野に在住していた西行の四人のみであったこと、そしてその日は雪で一層寂しさが増したことであろうことを述べた。今回は門院の納骨に立ち会った西行の和歌を紹介したい。

門院はかねてより高野の兼海上人に帰依したことは、仁平四年〈一一五四〉二月五日付の「御文」によってわかる。かねて「御堂」(菩提心院)の建立〈今鏡の記述による〉にあたっては、何かと兼海に相談した。本文に「高野のでんほうるん(伝法院)に、ころをかけまいらせて」とか、「わが身のけむかい(兼海)ひじりのでにてあらまほしき」によって容易に理解できる。その兼海は「御文」が書かれた翌年に示寂している。『高野山往生伝』にかれの記述がある。さて、西行の和歌は、



美福門院の御骨、高野の菩提心院へわたさせ給ひけるを、見たてまつりて
けふや君おほふ五の雲はれて心の月をみがきいづらむ (西行上人集 三九一)

で、歌意は「あなたの身におおっていた女人の五つの罪障がはれて、月の光(悟り)をさまたげていたものがなくなり、今日からは悟りをみちびく清浄な心がみがき出すことであろう」となる。

菩提心院は現在の不動院で、その境内に宮内庁管轄の美福門院陵がある。『紀伊続風土記』に「嵯峨帝の皇子大師堂及十二坊舎を立て菩提心院と号す濟高此院に居住す菩提心院又月上院といふ」とある。「五の雲」とは、女性が持つ五種の障害を、月の光を覆う雲にたとえている語。「五障の霞」ともいう。後白河院撰『梁塵秘抄』には「龍女は仏に成りにけり、などか我等も成らざらん、五障の雲こそ厚くとも、如来の月輪隠されじ」とある。西行歌の「心」と「月」は、「菩提心院」「月上院」の語を意識したのかも知れない。川田順氏は、「西行たる者、もっと深く心のこもった挽歌を奉るべきであった」とのべ、また窪田章一郎氏は「儀礼の域を出ていない」と述べるが、鳥羽天皇の皇后であった美福門院の納骨といういわば公的な場においては、やはり儀礼的に詠むのが普通ではないかと思考するがどうであろうか。